

授 業 科 目 名		理 学 療 法 研 究 法	担 当 教 員	松 澤 正	
対 象 学 生		2 ~ 3 学 年	学 期	後期(2学年)・後期(3学年)	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		理学療法と研究(オリエンテーション、研究の手段、着眼)			
2		情報収集法(文献の集め方、読み方)			
3		仮説、プロトコルの立案			
4		研究発表の仕方			
5		論文の作成 1(形式、内容、投稿規定、査読)			
6		論文の作成 2(題名、著者名、序論、成績、考察、引用文献)			
7		臨床研究の実際 1(機器を用いた研究)			
8		臨床研究の実際 2(症例研究)			
9		理学療法研究に必要な統計 1			
10		理学療法研究に必要な統計 2			
11		文献抄読 1			
12		文献抄読 2			
13		文献抄読 3、まとめ			
14					
15					
テキスト		「理学療法研究法」奈良 勲監修(医学書院)			
参考書					

授 業 科 目 名	地 域 理 学 療 法 学	担 当 教 員	江 口 勝 彦
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ~ 3	.コースオリエンテーション .総論 .概説	地域理学療法学概論 地域理学療法学とは、地域理学療法実践の歴史 地域理学療法の機能 地域理学療法の背景、病院・医療の变革、診療報酬と 地域理学療法	地域理学療法学 理念 CBR ノーマライゼーション
4 ~ 6		地域理学療法の展開1 病院・老人保健施設・ 小児施設・養護学校 展開2 在宅訪問 ・ 小児在宅	保健医療福祉における 理学療法 病院・診療所との関 わり、小児の在宅・ 通園、訪問リハ
7 ~ 9	.特講	社会資源の活用と地域理学療法 (担当：目黒 力) 保健医療福祉政策の動向・関連法規と地域理学療法 (特別講師：秋山純和)	システム 社会資源 システム 制度と関連法規
10 ~ 11	.特講	展開3 地域理学療法の実践：保健所 (特別講師：森倉三男) 展開4 地域理学療法の実践：都市型 (特別講師：伊藤隆夫)	保健所・保健センタ- 市町村との関わり 都市型地域リハ
12 ~ 14	.演習	今後のリハビリテーション医療と地域理学療法 (特別講師：石田 暉) 課題学習	全領域
15	単位認定試験	レポート課題による	
テキスト		掲示にて指定	
参考書		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「地域理学療法」伊藤日出男，香川幸次郎（医歯薬出版）¥3,500 ・ 「理学療法士，作業療法士のための地域リハビリテーション入門」 小川恵子，森倉三男（協同医書）¥3,500 	

授 業 科 目 名	臨 床 実 験	担 当 教 員	松 澤 正
対 象 学 生	3 学 年	学 期	通 年
単 位 (コ マ 数)	8 単 位 ・ 8 単 位	必 修	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
		<p>1. 実習目標</p> <p>臨床実習は、評価であり、患者の臨床的問題を解決するために習得の知識を総動員し理学療法評価、理学療法診断、治療指針、目標の設定ができるようにことを目標とする。理学療法の対象となる代表疾患・障害を持つ適切な症例に対し、病歴などから適切な情報を整理し、その中から問題点(仮説)を同定し、仮説を証明するために計画を立て実施し、そこから得られた結果の解釈からさらにその背景や関係を吟味し、分析統合をして、より具体的治療法に結びつく問題点として整理する。さらに治療指針を考え、短期及び長期的目標を設定することができるように実習する。</p> <p>2. 実習方法</p> <p>学外実習病院・施設において、現場実習指導者のもとで、適切な症例について理学療法の評価法の実習を行なう。</p> <p>3. 実習期間</p> <p>7月から8月の2週間の実習を行なう。</p>	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	スポーツ障害理学療法学	担 当 教 員	村 井 貞 夫
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1 ~ 15		<p>第1章アスレチック・リハビリテーション</p> <p>1.アスレチック・リハビリテーションの定義</p> <p>2.アスレチック・リハビリテーションの沿革</p> <p>3.アスレチック・リハビリテーションの分類</p> <p> a アスレチック・リハビリテーションの運動療法</p> <p> b アスレチック・リハビリテーションの物理療法 温熱療法、寒冷療法</p> <p>4.アスレチック・リハビリテーションの治療</p> <p> 頭部外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 頸部外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 肩関節外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 上肢外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 体幹外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 骨盤外傷・障害リハビリテーション</p> <p> 下肢部外傷・障害リハビリテーション</p> <p> a 大腿部 b 膝関節 c 下腿部 e 足関節</p> <p>5.アスレチック・リハビリテーションの実技</p> <p>第2章アスレチック・マッサージ</p> <p>1.アスレチック・マッサージの定義</p> <p>2.アスレチック・マッサージの沿革</p> <p>3.アスレチック・マッサージの分類</p> <p>4.アスレチック・マッサージの適応と禁忌</p> <p>5.施術の注意</p> <p>6.アスレチック・マッサージの実技</p> <p> 手技の分類とその方法</p> <p> 軽擦法 揉捏法 圧迫法 叩打法</p> <p> 振戦法 伸展法 その他</p> <p>第3章アスレチック・テーピング</p> <p>1.アスレチック・テーピングの定義</p> <p>2.アスレチック・テーピングの分類</p> <p>3.実技・目的</p> <p> 応急処置 予防 再発予防</p> <p>第4章徒手療法</p> <p>1.徒手療法の体系</p> <p>2.徒手療法各手技の概説</p> <p>3.実技</p>	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名	在宅ケア理学療法学	担 当 教 員	平 石 恒 男
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1		地域理学療法概念	
2		保健、医療、福祉の動向	
3		老人保健法による機能訓練事業	
4		介護保険と理学療法	
5		訪問リハビリテーション	
6		通所リハビリテーション	
7		高齢者の理学療法評価	
8		家屋改造（実例を通して）	
9		車椅子の選択	
10		歩行補助具の選択（杖、歩行器）	
11		障害者用自動車	
12		福祉用具の選択	
13		在宅リハ見学	
14		在宅リハ見学	
15		在宅リハ見学	
	テキスト		
	参考書		

授 業 科 目 名		言 語 治 療 学	担 当 教 員	谷 哲 夫	
対 象 学 生		3 学 年	学 期	後 期 集 中	
単 位 (コ マ 数)		2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容		国 家 試 験 出 題 基 準	
1		言語療法総論			
2		失語症の古典的分類			
3		失語症検査			
4		失語症のリハビリテーション			
5		特殊な失語			
6		失行・失認			
7		記憶障害			
8		言語の発達			
9		小児の言語障害			
10		構音障害の評価			
11		構音障害のリハビリテーション			
12		嚥下障害の評価			
13		嚥下障害のリハビリテーション基礎			
14		嚥下障害のリハビリテーション実践			
15		言語聴覚士の役割			
テキスト					
参考書					

授 業 科 目 名	看 護 学	担 当 教 員	高 木 夕 子
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (15 コ マ)	選 択	講 義 室
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 看護学授業の進め方 シラバスについて 臨床実習でかかわりをもった専門職を調べる その方法としての事例の提供 	
2	命と看護	<ul style="list-style-type: none"> 生命を考える意義 生態系の中の人間 生きて行く状態の3段階 看護の原点とは 	
3	看護の軌跡 歴史	<ul style="list-style-type: none"> 医療の中で必要とされた職業看護 職業看護の成り立ち 看護独自の役割の模索 ブラウン報告 看護観の流れーナイチンゲールの功績 	<p>レポート「関わった専門職の法的根拠を調べる。」</p> <p>レポート「環境とは」</p>
4	看護実践に必要な主な諸概念 看護活動の場	<ul style="list-style-type: none"> 看護の概念 看護の意味・三要素・諸定義・看護の役割と機能 人間の理解 健康 環境<社会>看護理論家の考え 保健医療活動とこれからの展望 医療の定義 保健医療福祉チームと職種の役割 保健医療福祉サービスの場 看護体制・看護方式 	<p>レポート「人間とは」</p>
5	専門職としての看護と教育	<ul style="list-style-type: none"> 専門職とは、看護専門職とは<日本看護協会・その他> 看護教育とは、看護基礎教育・看護継続教育 看護倫理 看護と法律 看護専門職能団体の役割 日看協・ICN・ICM 	<p>レポート「健康とは」</p>
6	看護理論と看護過程	<ul style="list-style-type: none"> 看護理論の概要 看護理論と看護の専門職化 看護概念と看護理論・理論をどのように活用するか。 看護過程とは・看護過程の構成要素・看護過程に必要な看護者の技能 	<p>レポート「看護学と理学療法学との共通点と相違点を述べ、チームメンバーとしてどのような協力体制が望ましいと考えるか。貴方の考えを述べなさい。」4000字</p>
7	看護診断		
	テキスト	「看護学概論 看護とは・看護学とは」編集 松木光子（廣川書店）	
	参考書		

授 業 科 目 名	福 祉 機 器 概 論	担 当 教 員	目 黒 力	
対 象 学 生	3 学 年	学 期	後 期 集 中	
単 位 (コ マ 数)	2 単 位 (1 5 コ マ)	選 択	講義室	
回	講 義 題 目	教 科 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
1	福祉機器概論	歴史、定義、関連領域との関わり、開発	地域理学療法学 2.生活環境整備 B.リハビリテーション関連機器 a.福祉用具 b.コミュニケーション機器 c.スポーツ・レクリエーション機器	
2	法的諸制度	介護保険法、交付適応など		
3	工学的基礎	数量的解析、実験手法、統計学的解析		
4	各論	移動・運動機能に関する機器		
5		感覚機能に関する機器		
6		生活環境に関連する機器		
7		バリアフリーを実現する機器		
8		ネットワークを利用した機器		
9	姿勢保持装置	実習		
10		実習		
12		実習		
12	福祉機器開発	見学実習		
13		見学実習		
14	自助具	実習		
15		実習		
テキスト		「バリアフリーのための福祉技術入門」 監)足立芳寛 (オーム社)		
参考書				